



観客を魅了したスターマイン＝1日午後8時、岐阜市早田、金華橋付近(撮影・安藤茂喜)

県内外の政財界人も感激

岐阜市の長良川河畔で行われた「第70回記念花火大会」には、県内外から多くの政財界の関係者や文化人が来場、大輪が咲き誇る夜空を賞じた。



大輪の花火を堪能する(左から)村瀬幸雄岐阜市日野隆司市長ら＝1日午後8時、岐阜市の長良川河畔

十六銀行の村瀬幸雄頭取は「58は、岐阜の夏を代表するイベント、最高の環境、70回の長い歴史も堪能した」と笑顔、初めて会場で観覧したという大和証券グループ本社の日野隆司社長は「あつたて岐阜を誇りに思う、岐阜の文化として長く続けてほしい」と満ち足りた表情だ。

藤野政巳県副知事(50)は「昔の花火を鑑賞しているが、これほど迫力のある大会は他にない。これまで続いた歴史を祝福したい」。JA岐阜中央会の櫻井宏会長(63)も「玉数の多さに驚いた。積み重ねた歴史の長さを感ぜざる感動的な大会。金華山と長良川の背景も花火によく合い、まさに

絶景」と絶賛した。TYKの牛込達夫社長(79)は「毎年花火を楽しむのは、世界でも日本人だけと聞く。皆花火を喜ぶことが、平和であることを実感する」としみじみ語った。

ナベヤの岡本太右衛門会長(85)は「70年もの昔から戦争で荒廃した庶民の気持ちを明るくさせた。岐阜の人々みんなが長良川に向かう、そんなしあわせな瞬間を味わった」と戦後間もないころの大会を懐かしみ、「最近の花火はハイテク技術でさらに楽しませてくれる。ますます発展していくでしょう」と期待を込めた。岐阜市の細江茂光市長、電通の前田真一新聞局長も訪れ、光と音の盛大な舞台を堪能した。



「笑顔さん、描き残す」日本画・水墨画研究団体「岐朋会」会長の日本画家

笑顔さん(89)は、岐阜市花火を鑑賞しながら、色紙にバスケットボールで目印を付けた形や色をスケッチしていた。終戦直前に徴兵され、海軍に所属した。戦後に見た花火は戦争からの解放感を感じさせた。時代を経て花火を見続けられる幸せを感じつつ、「今日の花火を描き残したい」とペンと紙にスケッチを続け



花火を鑑賞しながら、その姿を色紙に残したい笑顔さん(89)＝1日午後7時、岐阜市

笑顔 幸せ 史上空前